

令和元年度 第4回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日 時 令和2年2月14日（金）
午前10時～午前11時45分
場 所 蒲郡市役所新館6階601会議室

1 開会

事務局より配布資料の確認

委員委嘱について説明、欠席者の報告、委嘱状の授与
がまごおり協働まちづくり会議について、事務局より説明

2 報告事項

(1) モデル事業「人材育成講座」について（資料1）

- ・団体向け講座（2月8日（土）実施）
- ・個人向け講座（2月13日（木）実施）

フィールドワーク：2/18（火）形原一区お助け隊、2/26（水）小江まちカフェ

○事務局よりモデル事業「人材育成講座」について報告

- 団体向け講座の内容は、団体紹介をする際「団体の当たり前は、世間の当たり前ではない。初めて聞く人でも分かりやすく説明することが大切」というものだった。
- 個人向け講座に参加した総代の1/3程度は、同じ地域の人を誘ってきてくれた。総代も「一緒に地域を作っていくてくれる人」に声を掛けてくれているようだった。
- 個人向け講座は、地域に根差した活動でぜひ参考にしたい内容だった。あまり欲張らず、できることから取り組んでいきたい。
- 文章で伝えるというよりも、実際に体験してもらうことが実践に繋がる。

(2) どすごいバスツアーについて（資料2）

○事務局よりどすごいバスツアーについて報告

- 愛知学泉大学の学生が、大船渡の方と交流している。被災地の方から学生を迎えるだけでなくこちらに来たいと申し出があった。お互いに行き来することで、復興に向けて役に立つことがあると思う。
- バスツアーも参加団体同士で交流ができるとよい。

(3) 今年度モデル事業（公共的空間の利活用）について（資料3）

第4回実施報告、第5回実施に向けて

○事務局より今年度モデル事業（公共的空間の利活用）について報告

- 地域でやっていきたいという流れが出てきた。竹島ふ頭の「海のまち がまごおり」として、上手に活用できるように地域と検討している。
- 地域としては、継続していくために費用的な不安があるようだ。
- 次回を踏まえて、地域で継続していくために事務局と協議を進めてほしい。

→前回は、同じ日にクラスポで赤い橋のマルシェが開催されていた。若い人が多く来場されていた。子どもたちが体験できるものがたくさんあることが大きいと思う。

→赤い橋のマルシェは宣伝が上手。フリーペーパーの「ぶらりん」に掲載されていた。

→水族館とのコラボはすごい。暖かくなったらタッチプールをやってほしい。

→もともとの始まりは1日のイベントというよりも日常的に使ってもらおうということだったが、そういった使い方がされているのか？

→遊び場スペース、ニュースポーツ体験などを実施している。また音楽は、時間がある人がふらっと来てやるということができたらよいと考えている。

→決まった1日ではなく、気軽にこの通りを活用できたらいい。

→他の自治体は、1週間連続でやっていたりする。

→地域が1つの主体者となりつつある。主体者を生んでいくことも必要だが、新たに生まれた主体者を繋いでいくことも重要。

(4) 助成金採択事業「みんなの学校（映画上映）」について（資料4）

HE 学校へ行っていない子の会

○事務局より助成金採択事業「みんなの学校（映画上映）」について報告

→自分の地域の方も参加してくれ、地域から学校に入るということを感じていただけたのではないかな。

→実施団体は他の団体と繋がるいい機会になったと思う。

(5) 令和2年度助成金事業応募状況について（資料5）

応募件数：はじめの一步 1件

活動ステップアップ部門 0件

審査会：3月1日（日）午後1時30分～

ところ：蒲郡勤労福祉会館視聴覚室

その他：昨年度同様、活動ステップアップ部門の再募集、はじめの一步部門の随時募集を行います

○事務局より令和2年度助成金事業応募状況について報告

→昨年実施の人材育成講座に参加した団体が、今年度の助成金事業に応募した実績がある。今後もこのような講座を継続して、応募者を増やせたらよいと考えている。

→講座と実践の間に、「模擬実践会」があるとよりイメージがしやすいと思う。そこで費用面について具体的な内容が想像できる。この模擬実践会があると、助成金応募も増えるかもしれない。

→地域も市から活動費用を助成されているが、実際は上手に活用がされていない。資金をうまく使えば地域としてなにかできるはず。

→団体同士のコラボレーションをした上での申請を推奨しているが、実際は資金的な部分で難しいと思う。

→初めての人たちがチャレンジするために、「課題を見つけるためにまず一歩挑

戦してみました」といった申請も認められるようになったらよいと思う。

(6) 助成金事業実績報告会について

とき：4月19日（日）午後1時30分～

ところ：蒲郡市民会館会議室2

(7) 賀詞交換会について

とき：1月19日（日）午後2時～

ところ：蒲郡公民館

参加者：75名（スタッフ等含む）

3 議題

(1) 令和元年度第3回議事要旨の確認について（別紙1）

→特に意見がなく承認された

(2) 令和2年度モデル事業について（別紙2）

○事務局より令和2年度モデル事業について説明

◇人材育成講座（団体・個人向け）

◇若者のHUB（ハブ）を創るための挑戦（タイトル未定）

◇自治会・地域における「活躍びと」を養成するための研修・情報交換会の実施

→今年度やってきた取り組みの成果をどう活かしていくのかを考えてほしい。

→参加してくれそうな方をある程度目星をつけた講座とするのか、それとも完全に公募した方がよいのか。

→どちらもバランスとりながらやらないと難しい。

→ターゲットはある程度絞った上で、募集をすべき。また、まちづくりの取り組みを知ってもらうことが必要。

→自分が過去参加した講座を思い出すと、友人などから誘われるケースが目立つ。ただ、チラシだけ作ったとしても参加してくれる見込みは薄い。ある程度、仲間を連れて参加してくれそうな方をピックアップしておく必要がある。

→学生主体でなにかできないかと思う。若者がまちに対して、どんな思いを抱いているのかを聞く機会を作ってもよい。そこから、新しい視点が出てくるかもしれない。

→参加を呼び掛ける際には、目を引くキャッチコピーが必要。

→ボランティアに長く携わってくれている人が、高齢化に伴い徐々に減ってきてしまっている。また、残っている方も上手に意見が言えていない現状がある。そういう人と若者が一緒に取り組んでいけるようになったらよいと思う。

→町内会に女性を入れるための工夫として、副総代のポジションに女性を入れてみてはという意見がある。

→若者の意見を集約する場所がない。

→まちづくり会議の委員に学生は可能なのか。

→以前に蒲郡高校へ依頼したことがある。学生代表として参加する以上、生徒の

意見をまとめて会議で発言する必要があるため、難しいという回答だった。

→学校単位で助成金にエントリーできないかと問い合わせがあった。助成金の名目上、校外に出て他団体とのコラボなどが必要になるため、難しいという判断に至った経緯がある。

→ゾッキの映画製作実行員会に、高校生が参加している。高校生としての視点で気づくことがあって助かっている。

→映画を契機として、今まで繋がったことがない人たちと繋がれるとよい。

(3) まちづくり賞の授与について (別紙3)

○事務局よりまちづくり賞の授与について説明

→防災塾～知って蒲郡～が推薦された。

→防災については、地域に役割が移行しており、地域と防災ボランティアが協力して取り組むことが必要になってきている。

→防災塾は、毎年防災啓発の講演会を実施されているのがすごいと思う。

→自分の地区外の地区に出向き防災訓練を手伝うなどしている。

→特に意義なく承認された。

4 その他

(1) 次回開催時期について

各委員と調整し、後日連絡

(2) 連絡事項等